

「我が国におけるインクルーシブ教育システム構築に関する総合的研究」（横断的研究）成果から

**インクルーシブ教育システムを推進し、
主体的な取組を支援するための
「インクルCOMPASS（試案）」の提案**

インクルーシブ教育システムチーム
星 祐子

平成28年度からの5年間の研究の流れ

平成28年度

インクルーシブ教育システム構築に関する調査と情報収集

インクルーシブ教育システム構築状況調査

海外調査（アメリカ・イギリス・イタリア）

インクルーシブ教育システム構築に関する評価指標（試案）の作成

平成29年度

平成30年度

「インクルCOMPASS（試案）」の作成と活用の検討

「インクルCOMPASS（試案）（園・学校用）」の作成・改善

「インクルCOMPASS（試案）（教育委員会用）」の作成

園・学校における「インクルCOMPASS（試案）」活用事例の収集

令和元年度

令和2年度

地域と学校での主体的取組を支援する「インクルCOMPASS」の提案

「インクルCOMPASS（試案）（教育委員会用）」の改善

主体的取組を見出すための要件の検討

教育現場の実情と活用を考え、「評価指標（試案）」の名称と内容を改善し、「インクルCOMPASS」とした

「インクルCOMPASS（試案）」とは

- 平成28～29年度に提案した「評価指標（試案）」を実際に教育委員会と園・学校で試行、意見を伺い、現場の実情に即した内容に改善
- 「インクルCOMPASS」は、「**Com**ponents for **p**romoting inclusive education system and **ass**isting proactive practices」
インクルーシブ教育システムを推進し、（地域や学校の）主体的な取組を支援するための観点

「インクルCOMPASS（試案）」の趣旨

- 共生社会の実現を見据えたインクルーシブ教育システムの推進のためには、各地域における主体的かつ創造的で、地道な取組を進めていくことが大切である。
- インクルーシブ教育システムの構築には、それぞれの地域の実情や特色等に応じた取組を継続していくことが大切である。
- 「インクルCOMPASS（試案）」は、地域や園・学校が、インクルーシブ教育システム構築の現状と課題を把握し、次の取組を見出すための手がかりを得るためのもの

【教育委員会】

域内の各園・学校の取組の状況を把握することで、域内のインクルーシブ教育システムの構築に関わる施策を検討するための資料として使用する。

【園・学校】

自校（園）のインクルーシブ教育システムの構築を一層推進するために、現在の取組状況を把握し、その結果を踏まえて、今後、取り組むべきことを検討する際のヒントを得る。

現状を振り返ることで、自校（園）の強みや課題を確認する。

「インクルCOMPASS（試案）」の観点

【幼稚園、小・中・高等学校用】

1. 体制整備

- 1 - 1 園内・校内の支援に係る体制整備
- 1 - 2 周圀の幼児児童生徒及び保護者の理解
- 1 - 3 地域への理解・啓発
- 1 - 4 管理職のリーダーシップに基づく園・学校経営

2. 施設・設備

- 2 - 1 バリアフリー施設・設備の整備
- 2 - 2 合理的配慮の提供に関する施設・設備の整備
- 2 - 3 教育支援機器の整備
- 2 - 4 教室配置及び既存の教室の活用

3. 教育課程

- 3 - 1 特別の教育課程の編成
- 3 - 2 特別の教育課程の実施・評価

「インクルCOMPASS（試案）」の観点

4. 指導体制

- 4 - 1 指導体制の整備・充実
- 4 - 2 地域の関係機関の連携
- 4 - 3 幼児児童生徒及び保護者の理解推進

5. 交流及び共同学習

- 5 - 1 交流及び共同学習の実施のための具体的な取組
- 5 - 2 障害のある人との交流と理解啓発

6. 移行支援

- 6 - 1 就学支援システムづくり
- 6 - 2 就労支援システムづくり

7. 研修

- 7 - 1 園内・校内における専門性の向上のための取組
- 7 - 2 園内・校内研修における研修の実施
- 7 - 3 校外研修を活用した理解・専門性の向上

例(観点5) 交流及び 共同学習

観点5 交流及び共同学習

交流及び共同学習は、障害のある児童生徒が地域に根差して豊かな生活を送り、社会参加するために重要な教育活動である。このため、周囲が、日々の授業やスポーツ、文化・芸術活動等での交流を通して、障害のある児童生徒の特性や可能性を知ること、また、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒の相互理解を図ることが大切である。

5-1 交流及び共同学習の実施のための具体的な取組	
取組の状況	
<input type="checkbox"/>	(1) 学校全体で取り組み、教職員間で交流及び共同学習の目的や内容等を共有している。
<input type="checkbox"/>	(2) 学校独自に、交流及び共同学習推進のための手引きやガイドライン等を作成している。
<input type="checkbox"/>	(3) 交流及び共同学習推進のための手引きやガイドライン等を活用している。
<input type="checkbox"/>	(4) 交流及び共同学習の機会を設け、教育課程に位置づけている。
<input type="checkbox"/>	(5) 交流及び共同学習を推進するための部署を校務分掌に位置づけている。
<input type="checkbox"/>	(6) 交流及び共同学習が継続的に行われるように、年間計画を作成している。
<input type="checkbox"/>	(7) 学校間で役割分担を行い、連絡会や打ち合わせ等を行っている。
<input type="checkbox"/>	(8) (特別支援学級を設置している小・中学校においては) 通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習を実施している。 ※高等学校は該当しない
<input type="checkbox"/>	(9) 学校間交流を実施している。
<input type="checkbox"/>	(10) 交流先と教員や保護者等の付き添いや時間割を調整している。
<input type="checkbox"/>	(11) 居住地校交流を実施している。
<input type="checkbox"/>	(12) 居住地校交流先と教員や保護者等の付き添いや時間割を調整している。
<input type="checkbox"/>	(13) 交流及び共同学習対象の児童生徒の靴箱、ロッカー、座席等を設置している。
<input type="checkbox"/>	(14) 交流先と事後連絡会等を行い、課題を共有している。
上記以外の取組	
「取組の状況」と「上記以外の取組」をあわせた上での判断	
<input type="checkbox"/>	できている
<input type="checkbox"/>	どちらとも言えない
<input type="checkbox"/>	できていない
> (* <input type="checkbox"/> 重点的に取り組む必要がある)	
* 左側の判断を踏まえて、今後、重点的に取り組む必要があると判断した場合に✓を入れてください。	
インクルーシブ教育システム構築の推進にむけた重点的取組の方策案	
(上段で、「重点的に取り組む必要がある」と判断した場合に記入してください)	

例(観点5) 交流及び 共同学習

5-2 障害のある人との交流と理解啓発	
取組の状況	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	(1) 障害のある者となない者が相互に理解し合うための「心のバリアフリー」 ^注 学習を実施している。 (2) 障害のある大人や地域における高齢者等、同世代以外の人と世代を超えた交流を行っている。 (3) 障害のある子どものスポーツ大会や作品展示会等のイベントに参加している。 (4) 日常の学校生活において、障害者理解に関わる指導を行っている。
上記以外の取組	
「取組の状況」と「上記以外の取組」をあわせた上での判断 <input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> できていない > (* <input type="checkbox"/> 重点的に取り組む必要がある) * 左側の判断を踏まえて、今後、重点的に取り組む必要があると判断した場合に✓を入れてください。	
インクルーシブ教育システム構築の推進にむけた重点的取組の方策案 (上段で、「重点的に取り組む必要がある」と判断した場合に記入してください)	

注)「心のバリアフリー」とは、学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業のことです。本事業は、障害者の権利に関する条約や障害者基本法の規定等を踏まえ、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を契機として、障害のある子どもと障害のない子どもと一緒に障害者スポーツを行う、障害者アスリートの体験談を聞くなどの障害者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施することにより、互いの個性や多様性を認め合える共生社会の形成に向けた取組につなげるとともに、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進に資するものです。

ナビゲーションシート

小・中学校、高等学校用

I. インクルーシブ教育システムの構築状況

	できている	どちらとも言えない	できていない	重点的に取り組む必要がある
観点1 体制整備				
(1-1)校内の支援に係る体制整備				
(1-2)周囲の児童生徒及び保護者の理解推進				
(1-3)地域への理解・啓発				
(1-4)管理職のリーダーシップに基づく学校経営				
観点2 施設・設備				
(2-1)バリアフリー施設・設備の整備				
(2-2)合理的配慮の提供に関する施設・設備の整備				
(2-3)教育支援機器の整備				
(2-4)教室配置及び既存の教室の活用				
観点3 教育課程				
(3-1)特別の教育課程の編成				
(3-2)特別の教育課程の実施・評価				
観点4 指導体制				
(4-1)指導体制の整備・充実				
(4-2)地域の関係機関連携				
(4-3)児童生徒及び保護者の理解推進				
観点5 交流及び共同学習				
(5-1)交流及び共同学習の実施のための具体的な取組				
(5-2)障害のある人との交流と理解啓発				
観点6 移行支援				
(6-1)就学支援システムづくり				
(6-2)就労支援システムづくり				
観点7 研修				
(7-1)校内における専門性の向上のための取組				
(7-2)校内における研修の実施				
(7-3)校外研修を活用した理解・専門性の向上				

II. インクルーシブ教育システム構築の推進に向けた重点的取組の方策案

優先順位	観点番号	方策案の概要（できるだけ具体的に記載してください）
例	4	通常の学級に在籍する障害のある生徒について、保護者や関係機関との協働により個別の教育支援計画を作成することを通して指導体制の充実を図る。
1		
2		
3		

「インクルCOMPASS（試案）」の使用事例の収集（令和元年度の取組）

【目的】

1. 研究協力機関である園・学校において、「インクルCOMPASS（試案）」の使用を進めていただき、園・学校の実情に即した活用事例を収集する。
2. インクルーシブ教育システムを推進するためのツールとしての「インクルCOMPASS（試案）」の使用の効果を検討する。
3. 「インクルCOMPASS（試案）」の使用に基づく主体的取組から、園・学校におけるインクルーシブ教育システムに対する理解の深まりを考察する。

「インクルCOMPASS（試案）」の 使用事例の収集方法

【方法】

1. 研究協力機関で「インクルCOMPASS（試案）」及び「ナビゲーションシート」を用いた園や学校の取組状況を確認するとともに、教職員のインクルーシブ教育システムに対する意識や理解について伺う。
2. 1に基づき重点的取組の方策を検討のうえ、実施する。
3. 実施後に、取組に関わった教職員を対象に「インクルCOMPASS（試案）」と「ナビゲーションシート」の使用効果について伺う。
4. 「インクルCOMPASS（試案）」等を用いた取組が、インクルーシブ教育システムに対する教職員の意識や理解の促進にどのような影響をもたらしたか伺う。

インクルCOMPASS（試案）の実施手順

インクルCOMPASS（試案）を活用する手順は、大きく以下のとおりです。

1-1 校内の支援に係る体制整備	
取組の状況	
<input checked="" type="checkbox"/>	(1) 特別支援教育の推進を担う部署（例えば、特別支援教育部等）を校務分掌に位置付けている。
<input checked="" type="checkbox"/>	(2) 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒や特別な支援を必要とする幼児児童生徒の実態把握を行っている。
<input checked="" type="checkbox"/>	(3) 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒や特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援についての方針を作成している。
<input checked="" type="checkbox"/>	(4) 定期的に校内委員会を開催している。
<input type="checkbox"/>	(5) 全教職員間で、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒や特別な支援を必要とする幼児児童生徒に関する情報共有の場を設けている。
<input checked="" type="checkbox"/>	(6) 特別支援教育コーディネーターが、校内連携のための調整を行っている。
<input type="checkbox"/>	(7) 特別支援学級担任や通級指導教室担当教員が、校内支援や特別支援教育の推進の役割を担っている。
<input checked="" type="checkbox"/>	(8) 特別支援学校に対し必要な時に相談できる支援体制を作っている。
<input type="checkbox"/>	(9) 特別支援学校から、助言や援助を受けている。
<input type="checkbox"/>	(10) 特別支援教育担当部が他分掌（例えば、教務部等）と連携して支援を行っている。
上記以外の取組	
「取組の状況」と「上記以外の取組」をあわせた上での判断	
<input checked="" type="checkbox"/>	できている <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> できていない >（* <input type="checkbox"/> 重点的に取り組む必要がある）
*左側の判断を踏まえて、今後、重点的に取り組む必要があると判断した場合に✓を入れてください。	
インクルーシブ教育システム構築の推進にむけた重点的取組の方策案 （上段で、「重点的に取り組む必要がある」と判断した場合に記入してください）	

（1）取組の状況についてチェックをする

園や学校の取組の状況をチェックした上で、各項目の取組の進捗を総合判断し、今後の取組の方向性を検討します。

7つある観点のうち、園や学校の実情に応じて、チェックしやすい観点からはじめてください。



インクルーシブ教育システムを推進し、主体的取組を支援するための観点
インクルCOMPASS

ナビゲーションシート

1. インクルーシブ教育システムの構築状況

観点1 体制整備	できている	どちらとも言えない	できていない	重点的に取り組む必要がある
(1-1) 校内の支援に係る体制整備	○			
(1-2) 周囲の幼児児童生徒及び保護者の理解推進		○		
(1-3) 地域への理解・啓発		○		
(1-4) 管理職のリーダーシップに基づく学校経営	○			
観点2 施設・設備				
(2-1) バリアフリー施設・設備の整備		○		
(2-2) 合理的配慮の提供に関する施設・設備の整備		○		

（2）「ナビゲーションシート」で整理する

「ナビゲーションシート」を使って、各観点の取組の進捗を総覧し、今後優先的に取り組むべき事項を挙げます。

そして、実際に取り組むべき内容を話し合い、具体的な取組につなげていきましょう。

インクルCOMPASS（試案）の記入方法

(1) 取組の状況についてチェックをしましょう

1-1 校内の支援に係る体制整備	
取組の状況	
<input checked="" type="checkbox"/>	(1) 特別支援教育の推進を担う部署がある。
<input checked="" type="checkbox"/>	(2) 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒や特別な支援を必要とする幼児児童生徒の実態把握を行っている。
<input checked="" type="checkbox"/>	(3) 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒や特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援についての方針を作成している。
<input checked="" type="checkbox"/>	(4) 定期的に校内委員会を開催している。
<input type="checkbox"/>	(5) 全教職員間で、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒や特別な支援を必要とする幼児児童生徒に関する情報共有の場を設けている。
<input checked="" type="checkbox"/>	(6) 特別支援教育コーディネーターが、校内連携のための調整を行っている。
<input type="checkbox"/>	(7) 特別支援学級担任や通級指導教室担当教員が、校内支援や特別支援教育の推進の役割を担っている。
<input checked="" type="checkbox"/>	(8) 特別支援学校に対し必要な時に相談できる支援体制を作っている。
<input type="checkbox"/>	(9) 特別支援学校から、助言や援助を受けている。
<input type="checkbox"/>	(10) 特別支援教育担当部が他分掌（例えば、教務部等）と連携している。
上記以外の取組	
「取組の状況」と「上記以外の取組」をあわせた上での判断	
<input checked="" type="checkbox"/>	できている
<input type="checkbox"/>	どちらとも言えない
<input type="checkbox"/>	できていない
▶ (* <input type="checkbox"/>)	
*左側の判断を踏まえて、今後、重点的に取り組む必要があると判断した場合に✓を入れてください。	
インクルーシブ教育システム構築の推進にむけた重点的取組の方策案 (上段で、「重点的に取り組む必要がある」と判断した場合に記入してください)	

取組がなされていると思う項目にチェックします。

上で示された項目以外に取り組んでいることがあれば記載してください。

各項目の取組状況を踏まえて、総合的にご判断ください。チェックが付いた項目の数や種類に基づく明確な基準はありません。このチェック結果を、ナビゲーションシートに反映していただきます。

上段で「重点的に取り組む必要がある」と判断した場合に記入していただき、振り返りの際にご活用ください。

(2) 「ナビゲーションシート」で全体を整理しましょう



インクルーシブ教育システムを推進し、主体的取組を支援するための観点
インクルCOMPASS

ナビゲーションシート

『「取組の状況」と「上記以外の取組」をあわせた上での判断』
でチェックを付けた項目に○を付けてください。

I. インクルーシブ教育システムの構築状況

観点1 体制整備	できている	どちらとも言えない	できていない	不明
(1-1)校内の支援に係る体制整備	○			
(1-2)周囲の幼児児童生徒及び保護者の理解推進		○		
(1-3)地域への理解・啓発		○		
(1-4)管理職のリーダーシップに基づく学校経営	○			
観点2 施設・設備				
(2-1)バリアフリー施設・設備の整備		○		
(2-2)合理的配慮の提供に関する施設・設備の整備		○		

II. インクルーシブ教育システム構築の推進に向けた重点的取組の方策案

優先順位	観点番号	方策案の概要
例	4	通常の学級に在籍する障害のある生徒について、保護者や関係機関との協働により個別の教育支援計画を作成することを通して指導体制の充実を図る。
1		
2		
3		

上段の「I. インクルーシブ教育システムの構築状況」を俯瞰し、さらなる推進に向けて重点的に取り組む方策を記入してください。項目番号（1-1、2-2…）で挙げてかまいません。

研究協力機関

船橋市教育委員会

横浜市教育委員会

静岡県教育委員会

袋井市教育委員会

学校法人聖泉学院幼保連携型認定子ども園 大浜幼稚園

千葉県船橋市立湊町小学校

千葉県船橋市立法田中学校

千葉県船橋市立船橋高等学校

千葉県船橋市立船橋特別支援学校

学校法人育愛学園四季の森幼稚園

横浜市立中沢小学校

横浜市立汲沢中学校

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

横浜市立若葉台特別支援学校

袋井市立若葉幼稚園

袋井市立袋井北小学校

袋井市立周南中学校

静岡県立袋井高等学校

静岡県立袋井特別支援学校

1. 「インクルCOMPASS（試案）」に基づいた園・学校の強み及び課題と重点的な取組の検討

(1) 「インクルCOMPASS（試案）」のチェック・プロセス

特別支援学級担任である特別支援教育コーディネーターが「インクルCOMPASS（試案）」のチェックを行い、その結果を管理職と確認して「ナビゲーションシート」にまとめた。

(2) 学校の強みと課題

強み：特別支援教育推進委員会を設置し、定期的に情報共有を行う機会が設けられていること。特別支援教育COが中心となって他分掌との連携のための調整を行っていること。取組は学校長のリーダーシップによって後押しされていること。組織的に発達障害を始めとする支援を要する生徒を支援するための素地が構築されていること。

課題：教員が生徒への対応に困難さを感じ、研修の必要性を感じているが、研修の時間確保の難しさがあること。

(3) 重点的な取組の検討

重点的な取組：研修に焦点を当てて取り組む。

I. インクルーシブ教育システムの構築状況

観点1 体制整備	できている	どちらとも言えない	できていない	重点的に取り組む必要がある
(1-1)園内・校内の支援に係る体制整備	○			
(1-2)周囲の幼児児童生徒及び保護者の理解推進		○		
(1-3)地域への理解・啓発			○	
(1-4)管理職のリーダーシップに基づく園・学校経営	○			
観点2 施設・設備				
(2-1)バリアフリー施設・設備の整備		○		
(2-2)合理的配慮の提供に関する施設・設備の整備		○		
(2-3)教育支援機器の整備		○		
(2-4)教室配置及び既存の教室の活用	○			
観点3 教育課程				
(3-1)特別の教育課程の編成		○		
(3-2)特別の教育課程の実施・評価	○			
観点4 指導体制				
(4-1)指導体制の整備・充実		○		
(4-2)地域の関係機関の連携			○	○
(4-3)幼児児童生徒及び保護者の理解推進	○			
観点5 交流及び共同学習				
(5-1)交流及び共同学習の実施のための具体的な取組		○		
(5-2)障害のある人との交流と理解啓発			○	○
観点6 移行支援				
(6-1)就学支援システムづくり				
(6-2)就労支援システムづくり			○	
観点7 研修				
(7-1)園内・校内における専門性の向上のための取組		○		○
(7-2)園内・校内における研修の実施			○	○
(7-3)校外研修を活用した理解・専門性の向上			○	○

II. インクルーシブ教育システム構築の推進に向けた重点的取組の方策案

優先順位	観点番号	方策案の概要
1	7	特別な支援を要する生徒の指導に困っている職員もいるので、特別支援教育に関する研修の受講を進めていく。
2	4	必要に応じて専門家チームの派遣を要請し、助言を受け生徒に還元していく。
3	5	日本財団主催の「あすチャレ！スクール」で、パラアスリートを学校へ招き、パラスポーツのデモンストレーションを見たり、実際にパラスポーツを体験したりする中で、生徒のパラスポーツへの関心を高めるとともに、パラアスリートとコミュニケーションをとることで、障害に対する理解や新たな気づきを与える。

2. インクルーシブ教育システムを推進するための主体的な取組

(1) 校内研修会の実施

学校長：限られた時間の中で実施でき、参加する教員が関心の持てる内容を取り上げることの必要性について指摘

特別支援教育CO：体験型の研修 1時間の内容で設定

- ・文章を読めているのに内容を理解できない子ども
- ・板書の書き写しが難しい子ども

について疑似体験を踏まえた各班で意見交換

これらの研修の様子について学校だより、HPに研修会の報告を掲載

(2) 「特別支援教育だより」を通した所外研修内容の伝達と共有

発達障害の特性や支援方法について、簡潔に具体的な指導場面をイメージできるようにまとめた「特別支援教育だより」を月1回発行

気軽に相談し合えるきっかけづくり

3. 取組の意義

H中学校の教員の専門性向上、指導体制の充実に繋がる取組である。

「どうしたら研修ができるか」の視点で研修内容を検討し、また、「特別支援教育だより」によって外部研修をまとめ、伝達する方法については多忙化する学校現場の中で参考となるのではないか。

「インクルCOMPASS（試案）」の使用及び主体的取組事例 （H特別支援学校）

1. 「インクルCOMPASS（試案）」に基づいた園・学校の強み及び課題と重点的な取組の検討

(1) 「インクルCOMPASS（試案）」のチェック・プロセス

校長、副校長、教頭、教務主任、特別支援教育コーディネーター等、複数名で「インクルCOMPASS（試案）」をチェックし、「ナビゲーションシート」を使って、学校の取組状況を俯瞰し、強みと課題を可視化した。

(2) 学校の課題・重点的な取組の検討

課題及び重点的な取組として、「地域への理解・啓発」が挙げられた。本項目は、「ナビゲーションシート」で「どちらとも言えない」にチェックが付けられた項目だったが、インクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援学校のセンター的機能をより充実していく上で重要な点であることを確認し、重点的な取組とした。

2. インクルーシブ教育システムを推進するための主体的な取組

学校のWebサイトを活用した情報発信

学校のWebサイトに新たなページを開設し、教育相談や研修支援に関する情報発信を強化

3. 取組の意義

H特別支援学校のセンター的機能の充実に繋がる取組である。

サイトを運営・管理する教員自身の専門性向上にも波及効果が期待される。

「インクルCOMPASS（試案）」のチェック・プロセスと 使用の意義に関して

研究協力機関の取組から（一部の紹介）

【「インクルCOMPASS（試案）」のチェック・プロセスについて】

- 教育支援コーディネーターがチェックし、管理職と共有した。
- 全教職員で実施し、結果をまとめた。研修会で教職員に結果の共有を行った。
- 管理職、主幹教諭、生徒指導主任、養護教諭、特別支援学級担任の計7名で実施・確認をした。7名により「インクルCOMPASS検討会」が組織され、3回の会議を実施。チェック結果に基づき、取組状況を確認し、強みや課題について協議が行われた。

複数名での実施、単なるチェックで終わらせるのではなく、検討・協議がされること

【「インクルCOMPASS（試案）」の使用の意義について】

- 学校として、インクルーシブ教育システムの構築に何から取り組めば良いのか分からないときに役立ち、学校の取組状況と強み・課題を確認することで、これから取り組むべきことが焦点化される点で意義がある。
- 「インクルCOMPASS（試案）」をチェックすることで、当たり前だと思っていたことが自校の強みであることに気付くことができた。
- 「インクルCOMPASS（試案）」をチェックして自校の取組を振り返ることによって、よりよい実践に繋がっていくことが可能になるのではないか。
- 各項目について、既に実施しているものが多々あるものの、一つ一つの取組の質を問うと不十分と見なされる取組があることに気付いた。
- 年度末反省で校務分掌を振り返る機会となり、次年度の学校経営計画に反映させることができるのではないか。

それぞれの幼稚園や学校の取組状況の把握と持っている強みや課題の確認

強みを活かした取組、課題改善を目指した取組

「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。

それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけるかどうか、これが最も本質的な視点で有り、そのための環境整備が必要である。

インクルーシブ教育システムの構築を推進し、園や学校の主体的取組を支援します！

インクルCOMPASS

